

## 4. 人間学群

### (1) 学群学群コア・カリキュラム

人間学群学群コア・カリキュラム(専門基礎科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
CA10011	教育基礎論	1	2.0	1	春AB	金5,6	2B412	國分 麻里, 吉田 武男, 平井 悠介	「教育問題」を講義の入り口に据え、教育学がそれをどのように扱っているのかを講ずる。日常を学問的な視点から捉え直す機会を与える。	人間学群学生に限る。教育学類学生は、「学校の経営・制度・社会」と併せて受講すること。(2011年度までの「教育学I」に対応する。)主専攻必修科目
CA10021	学校の経営・制度・社会	1	2.0	1	秋AB	金5,6	2B412	上田 孝典, タスタンベコア クアニシ, 星野 真澄	教育の思想と理論, 教育実践と方法、教育の制度と経営、人間形成と環境・文化の基礎的知識について概説する。	人間学群学生に限る。教育学類学生は、「教育基礎論」と併せて受講すること(2011年度までの「教育学II」に対応する。)主専攻必修科目
CA10031	心理学I	1	2.0	1	春AB	木1,2	2B412	一谷 幸男, 濱口 佳和, 綾部 早穂, 山田 一夫, 原田 悦子, 加藤 克紀, 櫻井 茂男, 望月 聡, 青木 佐奈枝, 相川 充	心理学の目的と方法, 生物学的基礎, 心理的発達, 感覚, 知覚, 意識, 学習, 記憶, 思考と言語, 基本的動機, 情動, 知能, 人格, ストレス, 心理的障害, 心理療法, 社会的認知, 社会的相互作用について概説する。(「心理学I」では, このうち前半を講義する)	人間学群学生に限る。心理学類学生は, I・II 両方受講すること。
CA10041	心理学II	1	2.0	1	秋AB	木1,2	2B412	一谷 幸男, 濱口 佳和, 綾部 早穂, 山田 一夫, 原田 悦子, 加藤 克紀, 櫻井 茂男, 望月 聡, 青木 佐奈枝, 相川 充	心理学の目的と方法, 生物学的基礎, 心理的発達, 感覚, 知覚, 意識, 学習, 記憶, 思考と言語, 基本的動機, 情動, 知能, 人格, ストレス, 心理的障害, 心理療法, 社会的認知, 社会的相互作用について概説する。(「心理学II」では, このうち後半を講義する)	人間学群学生に限る。心理学類学生は, I・II 両方受講すること。
CA10051	障害科学I	1	2.0	1	春AB	火1,2	2H101	岡崎 慎治, 猪俣 朋恵, 塩川 宏郷, 柿澤 敏文, 原島 恒夫, 宇野 彰, 竹田 一則, 佐島 毅, 鄭 仁豪, 川間 健之介, 野呂 文行, 高橋 正雄, 小島 道生, 宮本 昌子	人の感覚機能および諸認知機能の発達と障害に関する基礎的知識を教授する。前半は「生理・病理学の立場から障害科学を捉える」、後半は「心理学の立場から障害科学を捉える」で構成する。	人間学群学生に限る。障害科学類学生は, I・II 両方受講すること。
CA10061	障害科学II	1	2.0	1	秋AB	火1,2	2H101	山中 克夫, 野口 代, 名川 勝, 米田 宏樹, 小島 道生, 岡 典子, 安藤 隆男, 小林 秀之, 加藤 靖佳, 岡崎 慎治, 園山 繁樹, 八重田 淳, 森地 徹, 小澤 温, 大村 美保	「障害科学」についての基礎的な知識を教授するとともに, その領域についての展望を提示する。前半は「障害原理論・特別支援教育学の立場から障害科学を捉える」、後半は「障害福祉学の立場から障害科学を捉える」で構成する。	人間学群学生に限る。障害科学類学生は, I・II 両方受講すること。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
CA10071	国際教育協力論	1	2.0	2・3	春AB	水5,6	2A210	佐藤 博志, 井田 仁康, 江藤 双恵	1ヵ月ほどのタイへの派遣(日本語教員の補助)を目的として、そのための講義を行う。 国際教育協力の知識と考え方を習得するとともに、タイでの日本語補助教員としてのボランティア活動ができる資質を養う。 国際教育協力のあり方を概観し、ボランティア活動をするためのタイの社会、文化、教育について学ぶ。タイ語とタイにおける日本語指導について学ぶ。昨年度タイへ派遣された学生たちの体験談を聞き、モチベーションを高めるとともに、引き継ぎをおこなう。 8月~9月, 11月~12月, 2月~3月の3期に分けて、国際協力実習としてタイへ派遣する。実習を行うためには、この講義をとっておくことが条件である。実習においては、基本的な社会ルールとマナーを守ること、および、実習校で受けた助言をよく理解し、省察することが求められる。これらの点についても、この授業を受講する時点から意識すること。水曜日第5時限の第1回の授業に必ず参加して下さい。 第1週 この授業についての注意事項 第2週 派遣日程の確認 第3週 国際教育協力の概要 第4週 タイの地理 第5週 タイの教育 第6週 前年度派遣生による体験談(1) 第7週 前年度派遣生による体験談(2) 第8週 前年度派遣生による体験談(3) 第9週 派遣における注意事項と模擬授業 第10週 模擬授業と最終確認 第11週 調整、その他 (タイ語の学習も行う。学習の単元は変更・調整する場合もある。) 授業への取り組み、レポート、出席状況などを総合して評価する。 授業中の指示に従ってください。	キーワード: タイ語, タイ文化, タイの社会と教育, 日本語教育, 教育実践, ボランティア, 国際協力 G科目 タイにおける実習を行うためには、この講義(春学期AB、水曜日5,6時限)をとっておくことが条件である。4年生の履修は原則として認めない。タイの情勢等によっては、実習の予定変更があり得ることを理解して受講してください。
CA10083	国際教育協力実習	3	2.0	2・3	春C秋ABC	応談		佐藤 博志, 井田 仁康	実際にタイにおいて日本語の補助教師として活動する。なお、旅費は実費を受講者が負担する。8~9月, 11~12月, 2月~3月の3期に分け、それぞれ2名前後派遣する。派遣先により、教える対象は高校生もしくは大学生となる。タイでの日本語補助教員としてのボランティア活動を体験し、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解、人間尊重の精神などを習得する。 ・はじめの1週間 タイでの現地教員によるオリエンテーション、ホームステイ先との交流 ・約1ヶ月間 主に高校生を対象として、タイの大学の附属高校などで日本語授業の補助教師としてのボランティア活動。指導内容は、日本語の発音、書き方、会話、文化、習慣など多岐にわたるが、現地での進み具合により、担当教員の指示に従う。 タイでの授業の取り組み方などを総合して評価する。 他の授業を休んで参加することにもなるので、関係の先生と十分に話し合うこと。人数の制限があるので、希望の期間にいけないこともある。なお、国際教育協力論を受講していることが条件となる。独学でもタイ語の習得をすすめる。実習においては、基本的な社会ルールとマナーを守ること、実習校で受けた助言をよく理解し、省察すること。	キーワード: タイ, 学校, 実習 G科目 国際教育協力論を受講していることを条件とする。人数を制限する。人間学群学生を優先する。教職への関心をもち、教職や教育学に関する科目の履修等、関連する学習を既に行っていることが望ましい。4年生の履修は原則として認めない。
CA10091	キャリアデザイン入門	1	1.0	1	秋C	水5,6	2B412	青木 佐奈枝	大学卒業後の自分の進路について、講義とグループディスカッション、および人間学群の専門性と関連の深い職種・進路先からの外部講師による講演を通して考える。	人間学群学生に限る。 主専攻必修科目 GDP
CA10103	キャリアデザイン自由研究	3	1.0	2・3	通年	随時		青木 佐奈枝	「キャリアデザイン入門」の講義を踏まえて、個々の職種への道筋を理解するためのガイダンスを行うと共に、レポート作成により将来の方向性を明確にする。	人間学群学生に限る。 GDP
CA10113	人間フィールドワークI	3	1.0	1・2	春C秋ABC	随時		加藤 克紀, 蒔苗 直道, 山中 克夫	人間学群で学ぶこと(教育学、心理学、障害科学)に関係するフィールドワークについて幅広く知るとともに、人間に関する実践的活動・実践的研究の基礎を学習する。	人間学群学生に限る。 人間学群学生は履修することが望ましい。
CA10123	人間フィールドワークII	3	1.0	2・3	通年	随時		加藤 克紀, 蒔苗 直道, 山中 克夫	教育学、心理学、障害科学と関連する、大学内外におけるフィールドワークに参加し、人間に関する実践的活動の基礎を体験的に学習する。	人間学群学生に限る。 フィールドワークIを履修していること。
CA10133	人間フィールドワークIII	3	1.0	3・4	通年	随時		加藤 克紀, 蒔苗 直道, 山中 克夫	教育学、心理学、障害科学と関連する、大学内外におけるフィールドワークに参加し、人間に関する実践的活動の基礎を体験的に学習する。	人間学群学生に限る。 フィールドワークIおよびIIを履修していること。
CA10141	国際教育政策概論	1	1.0	2・3	春C	火3,4	2A312	タスタンベコク アニシ	この授業は、ユネスコの教育政策に焦点を当てた国際機関の教育政策に関する入門コースである。授業では、ユネスコの教育政策の基本方針及び近年の動向を概観し、ディスカッションを行う。授業は基本的に英語で行うが、必要に応じて日本語で対応する。教材として、プリントアウトした資料を利用する。	英語で授業。 G科目